

2月24日開催「新型コロナウイルス研修会」のご報告

新型コロナウイルスが蔓延の兆しが疑われ始めた2月24日(祝)に当会で教ををいただいでいます路 京華先生により「新型コロナウイルス」について古今をまじえて、特別研修会を開催しました。

当日は、53名の参加者で会場は熱気にあふれ、好評でした。休憩時には窓を開け、空気の入替え、アルコール紙タオル配布など、できうる対策で臨みました。体調を崩された方はいませんでしたでしょうか。研修内容の要約を報告します。(記：ホームページ管理部)

新型コロナウイルス肺炎に対する治療と予防の私見 路 京華

ウイルスは賢い

はじめに、今回の新型コロナウイルスはヤクザウイルスと言われていると説明されました。ルールは守らない・ずるくて把握できない・新型で未知なことが一杯・治療にしても予防にしてもなかなか難しいと。

古典の説明

まず、「病邪が皮膚から里に入る傷寒論」と「温邪(細菌、ウイルス)が侵入する経路は上気道粘膜である温病論」の違いを詳しく説明されました。

古にも温邪と称し細菌、ウイルスによる病を認識し治療もされていた中国伝統医学です。

新型コロナウイルス肺炎

潜伏期間が14~24日と長く、感染しても自覚症状がない。感染力は非常に強い。治療薬・ワクチンが無い。肺の粘膜がゼリー状粘質物でおおわれ呼吸ができなくなる。

初期所見は

1. 発熱あるいは一部は発熱せず。熱があっても触ると熱を感じない
悪寒が軽い、あるいは悪寒を感じない
2. 空咳、痰は少ない、咽喉が不調
3. 怠い、倦怠感
4. 消化道症状、あまり食欲はない、もたれ、吐気、大便溏瀉
5. 口が渇く、口が苦い、あまり水は欲しくない
6. 舌質暗、舌尖稍紅、舌苔薄膩あるいは厚膩

新型コロナウイルスを発症した舌象写真はまさに6の舌象でした。舌診で肺が侵されているかが分かるということでは簡易に診断がされやすい利点があるようです。

肺の補養

肺は、嬌臓(弱く、病気になりやすい)・温邪首先犯肺(まず先に肺を犯す)・人体第一防線ということで、肺の補養が大事であるが、肺だけではなく他の臓腑も補養して肺を助けることが重要であると説明されました。

粘膜強化で予防

ウイルスは乾燥状態では40時間生きる

<予防参考方>

生黄耆	10g	青蒿	9	金銀花	10
百合	15	蘇葉	8	牛蒡子	10
桑葉	8	蘆根	15	肉蓯蓉	10

上記半量と水600mlで煎じ飲む

